

# BRIT (Border Regions in Transition) 第12回世界大会

## The XII International Scientific Meeting on Border Regions in Transition (BRIT)

H24会人01

**開催日** 平成24年11月13日～平成24年11月16日(4日間)  
**開催地** 福岡県福岡市(13-14日)・長崎県対馬市(15日)・韓国釜山市(16日)  
**申請者** 北海道大学 スラブ研究センター 教授 岩 下 明 裕

### 会議の概要と成果

北海道大学スラブ研究センターとグローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」は、九州大学、東西大学校との共催ならびに福岡市、釜山市の後援を受け、笹川平和財団及び村田学術振興財団などの助成のもと、2012年11月13日(火)から16日(金)まで、BRIT XII (Border Regions in Transition：移行期の境界地域)福岡・釜山大会を開催しました。BRITは1994年にドイツ・ポーランド大会で結成された、境界・国境地域に関わる研究者が集うネットワークですが、その後、ヨーロッパを中心に大会が組織され、近年は北米・南米へと拡大していました。北海道大学を中心としたチームが、2011年9月にスイス・フランスで開催された第11回大会に参加し、この第12回大会を誘致しました。

BRITの特徴は、通常の学会組織と違い、恒常的な事務局をもたない自発的な研究ネットワークであることです。そのため大会を誘致・主催する組織者がプログラムやスケジュールを自由に組むことになります。ただし、いくつかのルールがあり、国境に面した2つの異なる国の都市で開催すること、会議の間に国境を越える巡検(フィールドトリップ)を入れることが必須とされています。

このような巡検をスムーズにできる地域、そし

て何より隣国とベアの関係でその発展を考えている都市は、日本でただひとつ、福岡市しか見当たりません。そこで3年かけて福岡市と協議するとともに、韓国・釜山にもたびたび足を運び、九州大学と東西大学校(釜山)を共催組織に加えることで、BRIT XIIの実施体制を組みました。

大会初日、佐伯浩総長による開会の辞に続き、主催者を代表してスラブ研究センター 岩下明裕教授(GCOE拠点リーダー)が“BRIT XII：Challenges and Perspectives”と題する基調報告を行い、その中で、ユーラシア・東アジアにおいて境界研究の拠点が不在であると述べ、BRIT初の東アジアでの開催意義が強調されました。

会場の福岡国際会議場では、福岡市主催による九州大学・東西大学校の学生による討論会や、姜尚中(カン サンジュン)氏(東京大学)の講演会も開かれました。BRIT大会を支援した境界地域研究ネットワークJAPAN(JIBSN)からは、稚内、与那国、竹富、五島など国境自治体の実務者も参加し、日本の境界研究の存在感を示しました。福岡で2日間研究大会を行った後、参加者一同はJR九州からチャーターしたビートル号(水中翼船)で博多港から対馬厳原港に渡り、「国境の島」対馬を縦断し、財部能成氏(対馬市長)の講演を経て、比田勝港から出港し、韓国釜山港へ入国しました。今回の船による国境越えは多くの境界研究者の関心を引きました。

釜山では、東西大学の真新しいセントラム・キャンパスで大会が続けられました。最終日、張済国(チャンジェグ)氏(東西大学校長)は昨今の日韓間の対立を念頭に置きつつ、境界間の交流を続け、境界研究を推し進めることが両国間の政治的対立、さらには東南アジアにおける対立の解決につながるとの期待を表明し、4日間にわたる大会が成功裏に閉幕しました。40カ国200名を越える参加者のスケールはBRIT史上最大となり、アジア・ユーラシア地域の研究者、特に日本、シベリア・極東ロシア、中国、シンガポール、タイ、インドの研究者群の存在感は、これまでBRITを牽引してきた欧米の研究者に多大なインパクトを与えました。(「北大時報」2012年12月号から抜粋の上、一部修正)

\*これまでのBRIT開催記録

- I. The German-Polish Border, June 1994
- II. The Russian-Finnish Border, July 1997
- III. The U.S.-Mexican Border, January 1999
- IV. The Indo-Pakistan Border, February 2000
- V. The Estonian-Russian Border, June 2001
- VI. Hungary and Borders with Croatia, Serbia, Romania, and Ukraine, September 2003
- VII. The Israeli-Palestinian Border, January 2005
- VIII. The Polish-Ukrainian Border, September 2006
- IX. The Canada-U.S. Border, January 2008
- X. The Chile-Peru Border, January 2009



財部対馬市長(前列左から6番目)と巡検参加者

XI. The French-Swiss Border, September 2011

(関連資料)New Letter23号 東西大学校(釜山)日本センター2013.2.28より

国境研究者の国際学術会議「BRIT XII 2012」釜山大会開催

—世界40カ国から200名の研究者が東西大セントラムキャンパスに集結—

11月16日(金)、東西大セントラムキャンパスにて、国境・境界研究に関する国際学術会議「BRIT (Border Regions in Transition) XII 2012」釜山大会が開催された。12回目となる今大会は「国境の声：新たな世界秩序づくり」をテーマに掲げ、世界40カ国から約200名の研究者が参加し、国境地域の政治、経済、社会、文化などのセッションに分かれ、多様な分野の研究発表が行われた。

BRITの大会はこれまで、ドイツとポーランド、ロシアとフィンランド、イスラエルとパレスチナなど、国境を挟んだ2ヶ国の都市2ヶ所を舞台に、1~2年に1回のペースで11回開催されてきた。今回の大会は11月13日(火)、14日(水)に福岡で研究大会、15日(木)は高速船で対馬に移動し、対馬市長の講演会、その後再び高速船で釜山に移動し、16日(金)に釜山にて研究大会を開催するという日程で行われた。初の東アジア開催となった今大会には、東アジアおよびユーラシア地域からの参加が目立ち、これまでで最も多様性に富む大会となった。

釜山大会を主催した張済国東西大総長は、研究大会後の晩餐会にて「境界研究の深化によ



佐伯総長による開会の辞

り国家間の政治的対立が解決に向かうであろう」と境界研究の意義と今後への期待を述べた。また、英語での高いコミュニケーション力を持つ本学学生も大会スタッフとして参加し、会場案内や世界各国からの参加者の問い合わせに親切に対応するなど、円滑な大会運営に貢献した。

### 「福岡－釜山学生討論会」開催

一両都市の大学生が釜山と福岡の魅力について紹介－

11月13日(火)、「BRITXII2012」行事の一環として、福岡市主催「福岡－釜山学生討論会」が福岡国際会議場にて開催された。釜山市から東西大日本語学科の学生6名、福岡市から九州大学法学部の学生6名が参加し、「福岡・釜山の交流人口増加による都市の魅力の向上」というテーマの下、両都市の魅力について発表し、活発な討論を繰り広げた。

まず、東西大の学生は釜山の魅力として海水浴場、市場、デジ(豚肉)クッパなどを、九州大の学生は福岡の魅力としてショッピング、とんこつラーメン、祭りなどを中心に紹介し、両都市の魅力に共通する点や異なる点を確認し合った。

その後、これらの魅力を踏まえた上で、両都市に住み続けたいかという話題について意見を述べ合った。学生たちにとって「どの都市に住むか」は就職の問題と密接に関わっているようで、日韓両国の就職を取り巻く状況について、双方が意見を述べた。その際、就職活動中の参加学生が「自分の周りには地元を離れ、首都圏での就職を目指しているものがある」と述べたのを受け、日韓双方から様々な意見が出されたが、最終的には「『自分の実力を活かせるか』が就職の第一条件であり、かつ定住の第一条件にもなる」という結論に達した。

討論会終了後には懇親会が開かれ、参加学生たちはお互いに討論会準備のための苦勞をね

ぎらった。参加学生はフェイスブック上で今後も引き続き交流を重ね、再会することを約束した。同討論会に参加した本学の学生は「討論会の開催日が近づくにつれ緊張したが、これまで学んだ日本語を使って大勢の日本人の前で発表することができ、大変貴重な経験となった」と感想を述べた。また、「今回のような日本での開催行事に、本学の学生が参加できる機会が今後も継続的に与えられれば」との期待も聞かれた。この討論会の模様は、NHK福岡ならびに福岡に本社を置く西日本新聞でも取り上げられ、福岡と釜山の交流に多くの関心が寄せられていることが確認された。

### (関連リンク・成果一覧)

#### ● BRITXII公式ホームページ

<http://www.borderstudies.jp/brit2012/top.html>

#### ● BRITXII最終プログラム (PDF)

[http://www.borderstudies.jp/brit2012/pdf/BRITXII\\_programme\\_booklet\\_final\\_light\\_1220.pdf](http://www.borderstudies.jp/brit2012/pdf/BRITXII_programme_booklet_final_light_1220.pdf)

#### ● BRITXII要旨集 (PDF)

[http://www.borderstudies.jp/brit2012/pdf/BRITXII\\_abstracts\\_booklet\\_ver1.pdf](http://www.borderstudies.jp/brit2012/pdf/BRITXII_abstracts_booklet_ver1.pdf)

#### ● BRITXII ドキュメンタリー・フィルム (英語)

<http://www.ustream.tv/recorded/29269736/theater>

#### ● BRITXII ドキュメンタリー／フィルム (日本語)

<http://www.ustream.tv/recorded/28500347>

#### ● 特別寄稿：BRIT 福岡・釜山大会で報告して (中央学院大学 川久保 文紀准教授)

<http://borderstudies.jp/essays/essays/pdf/kawakubo.pdf>

#### ● BRITXII・プレセッション「ボーダースタディーズの世界的コミュニティをつくる」

<http://borderstudies.jp/en/essays/transcripts/pdf/BRIT2012GCOEsession.pdf>